

# 日本弁理士会関東会設立20周年 記念講演会・記念式典

イベントレポート

## 地域のイノベーションは知財から！ 経営の「ど真ん中」を支える関東会 が描く次の20年

日本全体のGDPの約4割を占める広域関東圏。日々、数え切れないほどの新しいアイデアや技術が生まれ、日本の経済を支えるこの関東圏で、知財の力をつかい企業を陰で支えるプロフェッショナルたちがいます。

2026年2月13日、東京・元赤坂の明治記念館「富士の間」にて、日本弁理士会関東会の設立20周年記念祝賀会が盛大に開催されました。関東1都7県をカバーし、全国の弁理士のうち66%が所属する日本最大の地域会です。

実行委員の竹内 幸子氏と西村 公芳氏が司会を務め、和やかに幕を開けた祝賀会。20年の歩みと、地域経営のビジョンが交差した当日の様態をレポートします。

知財を経営の核に。次代に向けた力強いメッセージ



祝賀会の幕開けを飾ったのは、日本弁理士会関東会会長の榎本 英俊氏の挨拶です。

「東京都心から多摩地域、そして神奈川県、千葉県、埼玉県、茨城県、群馬県、栃木県、山梨県まで、それぞれ産業構造や課題は異なりますが“知財の力で地域を元気にしたい”という想いは共通でした」

榎本氏は20年の歩みをこう振り返り、AIをはじめとする技術の飛躍的な進化に対応できる弁理士の育成に向けた決意を述べました。



続いて登壇した日本弁理士会会長の北村 修一郎氏は、弁理士の新たな価値について言及。知財経営コンサルの領域での活動を例に挙げ、企業からその価値を認めてもらう活動を広げていく必要性を訴えました。



会場の空気を一段と引き締めたのは、特許庁長官の河西 康之氏の祝辞です。

「知財戦略は今や、経営のど真ん中に位置づけるべきもの。弁理士の皆さんのお力添えなしに、知財経営支援に魂は入りません」

知財の力でイノベーションの成果を強い権利に仕立て、事業で稼いでいくことが不可欠だと力強く語りました。



さらに、関東経済産業局局長の岩田 泰氏も登壇。人手不足や物価高など、地域の中小企業を取り巻く厳しい現状に触れつつ、関東会と連携して推進する「広域関東圏知的財産戦略推進計画」の重要性を強調し、地域企業に寄り添う専門家への期待を述べました。

## 地域ブランドを支援する。「出流そば」に込められた知財の力



歓談に移る前、ステージでは日本弁理士会のマスコットキャラクター「はっぴょん」が紹介されました。はてなマーク・ビックリマーク・握りこぶしをモチーフにしたデザインは、アイデアを具体化

し、形にしていく弁理士の姿を表しており、3Dキャラクターとしての登場からちょうど10周年を迎えた節目でもあります。

その後、「1、2の3、よいしょー！」という掛け声とともに鏡開きが行われ、2018年度に関東支部長、2019年度に関東会会長を務め、元日本弁理士会会長でもある鈴木一永氏の乾杯の音頭で、祝賀会は華やかな歓談タイムへと移りました。



ここで参加者の注目を集めたのが、会場で提供された栃木県の「出流（いづる）そば」です。単なるご当地グルメではありません。独立行政法人工業所有権情報・研修館（INPIT）の加速的支援のもと、関東会も全面的に協力して地域団体商標としてのブランド化を推進している、まさに知財の結晶です。知財の力を舌で味わえる粋な演出に、多くの参加者が舌鼓を打っていました。



地域会のイベントならではの利き酒コーナーもありました。1都7県の有名な地酒やソフトドリンクなどが並び、あっという間に品切れというお酒も多くありました。

## 1都7県の知事から届いたエール。地方創生を推進する知財エコシステム



歓談の合間には、関東圏1都7県の知事から寄せられた祝辞がスクリーンや書面で紹介されました。

AI時代の著作権・特許の重要性、理工系大学の技術シーズを事業化につなげる新規予算の措置、農産物の育成者権を活用した戦略的な品種保護、他土業と連携したワンストップ型の相談会――。

テーマは多岐にわたりますが、どの知事にも共通していたのは「知財の力で地域を強くしたい」という強い意志です。知財の役割が単なる権利の出願にとどまらず、地方創生や産業育成の推進力となっていることが伝わってくる時間でした。



関東会の活動を紹介するポスター展示もありました。委員会の紹介から、毎年「弁理士の日（7月1日）」を記念して実施される「弁理士の日イベント」ポスターもあり、多くの参加者がポスターの前で熱心に歓談されているのも印象的でした。

## 知財のプロが奏でる音楽。会場が一体となったクライマックス



祝賀会の華となったのは、湘南・鎌倉を拠点に活動する音楽ユニット「小川コータ&とまそん」によるライブパフォーマンスです。ボーカルの小川コータ氏は現役の弁理士でもあり、表現者としての感性と知財の専門家としての視点を併せ持つ稀有な存在。サポートメンバーの浜田氏を迎えた編成で、約15分間の演奏を届けました。

大トリを飾ったのは、80年以上の歴史を誇る早稲田大学応援部です。リーダー2名、チアリーダーズ2名の計4名が駆けつけ、ユーモアたっぷりの口上で会場を沸かせました。

「地域のイノベーションは知財から」この20周年記念事業のスローガンが示すとおり、弁理士の重要性は時代とともに増しています。関東1都7県を舞台に、知財のプロフェッショナルたちが挑む地域企業とのこれからの、ぜひご注目ください。